2025 年 7 月 25 日

医療薬学専門薬剤師の認定申請および更新申請に係る
事例報告書の作成について

「医療薬学専門薬剤師」の認定を申請する際、および認定の更新を申請する際には、自ら実施した患者アウトカムや医療の質向上に貢献した臨床実績 10 件を提出する必要があります。臨床実績提出用の事例報告書を作成する際は、以下の内容に従って作成してください。また、事例報告例を掲載していますので、作成時の参考にしてください。

1) 申請者が、研修施設での患者対応（症例）、薬剤業務において、医療の質向上または患者アウトカムの向上等に寄与した事例を記載する。診療録などから抜粋した患者の診療経過やルーチンの薬剤業務などの薬学的介入や薬学的ケアが希薄な事例は含めないこと。

2) 事例番号（1～10）を記載する。

3) 事例領域
- 症例、薬剤業務から該当するものを 1 つあるいは両方を選択する。
  症例においては、疾患の分類番号を記載する。
- 薬剤業務の場合は、該当するものを 1 つ選択する。

※10 件の事例において、領域に偏りが生じないよう可能な限り複数領域を提出すること。

4) 対象者
- 薬剤管理指導など直接的な指導・薬学的介入であれば「患者」、医療機関の職員からの相談応需であれば「医療機関の職員」など、主に直接関わった対象者を選択する。
- 対象者と関わった期間と、期間中に関わった回数をそれぞれ記載する。

5) 事例の要約（200～300 字程度）
- 事例の題目を具体的に記載する。
- 患者が関与した場合は、症例の主たる疾患名と性別、年齢を記載する。
- 事例の内容の要約について、枠内に収まるように記載する。（10.5 ポイント、MSP 明朝）
  ※施設名など個人が特定できる情報は明記しないこと。

6) 申請者が関わった内容と寄与の要約（200～300 字程度）
- 自身の関わった内容の要約について、枠内に収まるように記載する。（10.5 ポイント、MSP 明朝）
- どのような場面・契機で、どのように関わり、どのような経過・結果となったか、具体的に記載する。
- 自身（申請者）を主語として「提案した」「推奨した」など、自身の行為が判る表現を用いる。

執筆上の詳細について：単位、略号等、執筆上の詳細については下記の事項を参照してください。

単位の表記について

長さ： m, cm, mm, µm, nm, Å

量： kg, g, mg, µg, ng, pg, mol, mmol, µmol

容積： L, mL, µL（リットルの’L’は大文字）

時間： s, min, h, d

温度：℃（セルシウス度）, K

放射線照射量： Bq, dpm, Gy, Sv

濃度： M, mM, mol/L, mmol/L, mg/mL, µg/mL, %, %（v/v）, %（w/v）, ppm, ppb（リットルの’L’は大文字）

略語について

一般的でない略語を使用する場合は、それぞれの初出時にスペルアウト（欧文を略さずにつづること）し、直後に略語を括弧（ ）内に示し、以下略語を用いてください。日本語表記がある場合は、「日本語（スペルアウト：略語）」としてください。略語の使用は最小限にしてください。

【例示】

・このような症例では voriconazole（VRCZ）の投与が推奨されているため

・本患者の C 反応性蛋白（C-reactive protein：CRP）を測定したところ

なお、以下の略語はスペルアウトしないで使用できます。

ADP: adenosine 5′ -diphosphate

AIDS: acquired immunodeficiency syndrome

AMP: adenosine 5′ -monophosphate or adenylic acid

ANOVA: analysis of variance

ATP: adenosine 5′ -triphosphate

cAMP: adenosine 3′ ,5′ -cyclic monophosphate

CYP: cytochrome P450

DNA: deoxyribonucleic acid

ED_{50}: 50% effective dose

FAD: flavin adenine dinucleotide

HPLC: high-performance liquid chromatography, high-pressure liquid chromatography

IC_{50}: inhibitory concentration, 50%

LD_{50}: 50% lethal dose

mRNA: messenger RNA

OTC: over the counter

QOL: quality of life

RNA: ribonucleic acid

RT-PCR: reverse transcription polymerase chain reaction

WHO: World Health Organization

医薬品名について

日本で医薬品として認可され販売されている医薬品名は一般名（JAN または INN）で記載してください。塩の表示は必須としません。未発売の医薬品名は原則として英米綴りの一般名を用い、普通名詞扱いとしてください。商品名での記載が必要なら、最初に一般名、次に括弧内に商品名を記載してください。その際、商標登録されたものは位置に気をつけながら登録商標表示'®'を付けてください。

【例示】

・正しい例　この患者にダリドレキサント（クービビック®錠）を投与したところ

・誤った例　この患者にダリドレキサント（(クービビック®錠）を投与したところ

引用文献の表現について

臨床実績事例報告書はスペースの都合上、引用文献の詳細な記載ができません。報告書の本文中の該当箇所に括弧を設け、その中に以下に示す方法で記載してください。

1)「雑誌名. 発行年;巻:通巻ページ（始め-終わり). 」の形式で記載してください。

2)雑誌名は正式な略称を記載してください。略称は英文誌なら PubMed の「NLM Title Abbreviation」、和文誌なら医中誌の「医中誌略誌名」を参照してください。なお、略称の記載の際には、略称の後のピリオドは入れないようにしてください（例：N. Engl. J. Med..×→N Engl J Med.）

3)雑誌名と発行年の間はピリオド、発行年と巻の間はセミコロン、巻と通巻ページの間はコロン、通巻ページの最終ページ数は最初ページ数と重複しない数字のみ、最終ページ数の後ろには必ずピリオドを記載してください。

【例示】

・中等度から重度の結節性痒疹に対するネモリズマブの有効性が報告（N Engl J Med. 2023; 389: 1579-89.）されているため本患者への処方提案をおこなった。

・トレーシングレポートを活用すると抗がん薬による副作用への対応率が改善することが報告（医療薬. 2017; 43: 94-103.）されているため当施設でも積極的に導入した。